

「大阪名所 じっくりMAP」

ものづくりの東成区と ラグビーに沸く東大阪市を探究

大阪市の東部に位置する東成区。下町風情が残る静かな住宅街がある中、区内には小さな町工場が1,000以上もある「ものづくり」が盛んな街です。古くは奈良時代の深江の香笠^{カサガサ}づくりに始まり、時代を経て明治から大正時代には染織や履物、メガネ枠といった日用品から金属加工品まで多岐にわたる町工場が創業しました。

かの松下幸之助氏も、大正6年(1917)22歳の時に東成区で自らが考案した「松下式ソケット」をつくり、会社を始めたのがパナソニックのはじまりとされています。

隣の東大阪市も、町工場が作った人工衛星「まいど1号」が打ち上げられたことで、「ものづくり」では有名ですが、今年は何とんでも秋に開幕する4年に1度のラグビー世界大会で盛り上がっています。

“ラグビーの聖地”と称される花園ラグビー場は、開催会場に決まったことを機に大規模な改修工事が施されました。

今回は東成区の世界レベルのものづくりと、ラグビー世界大会に沸く東大阪市を、ラグビー元日本代表の平尾剛さんに紹介していただきます。平尾さんの特別寄稿「花園青春記」もありますよ。ぜひ、ご覧ください!!

詳しくは
裏へ!



東成区～東大阪市 案内人

平尾 剛 (ひらお つよし)

1975年大阪府寝屋川市生まれ。同志社普通中学、高校、同志社大学ではラグビー漬けの毎日を送る。卒業後は三菱自動車工業京都を経て神戸製鋼コベルコスチーラーズに所属。1999年、第4回ラグビーW杯日本代表に選出。2007年に脳腫瘍の後遺症により現役を引退。現在は神戸親和女子大学発達教育学部シニアスポーツ教育学科教授。著書に『近くて遠いこの身体』『台気道とラグビーを貫くも一次世代の身体論』等。秋に開催される世界大会で日本が決勝トーナメントに進める鍵はロシア戦!皆で応援しよう!!

